

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究

小矢部市教育委員会

## ●現状・課題

生徒数の減少が進む中、部員数の減により、団体競技においてはチーム編成ができない状況となり、廃止となる部活動が増えてきている。個人競技においても、練習相手が確保できないため、部活動として成立しない状況が生じてきている。加えて、大会での上位入賞や、より高度な技術習得を求める生徒がいる一方、単に仲間とともに楽しく体を動かし運動したいと考える生徒や運動に関心のない生徒などが増えており、二極化が進んでいる。教員についても、社会環境が変化していく中で、生徒指導や保護者及び地域からの多様な要望に応えるため、部活動への対応については時間外勤務で対応せざるを得ないケースが多い。近年は、教員数も減ってきており、ほとんどの部活動において競技経験のない教員が部活動の顧問にならざるを得ない状態となっている。

## ●実践研究校・競技

令和4年8月下旬から、4中学校、10運動部（男女別）、1文化部の計11部活動がモデル事業として実施した。（実施期間：R4.8.26～R5.3.26）

- ①ホッケー：石動中学校、大谷中学校、津沢中学校、蟹谷中学校（県ホッケー協会） 【4校合同】
- ②野球：石動中学校、蟹谷中学校（市野球連盟） 【2校合同】
- ③柔道：石動中学校（市柔道協会） 【単独】
- ④吹奏楽：津沢中学校（市吹奏楽団） 【単独】

## ●実践内容

### ①再委託団体について

昨年度開催された「部活動あり方検討委員会」の検討結果に基づき、4月から関係機関、各中学校、NPO法人おやべスポーツクラブ、市体育協会、市吹奏楽団、市文化スポーツ課等と協議を重ね、運動部はNPO法人おやべスポーツクラブ、文化部は市吹奏楽団と業務委託契約を締結した。

### ◎運動部（NPO法人おやべスポーツクラブ）

【主な業務】各競技団体との調整 連絡網の整備 生徒指導者の保険の加入 指導者情報の把握 指導者勤務状況の確認 謝金の支払い 怪我時の連絡対応 学校との調整

【競技団体】団体内で連携し指導者を確保 団体長が責任のもと派遣 原則土日祝日に派遣

【会場等】基本的には、従来どおりの場所で開催 平日の顧問が主体となって確保学校施設・備品等は従来からのものを使用

【日程調整】平日の顧問と、休日の指導員が連携し対応 生徒に周知（LINE等整備）

### ◎文化部（市吹奏楽団）

【主な役割】指導者の派遣 実技指導 謝金等の支払い 学校との調整

【指導者】団員15名を指導者として登録し、状況に応じて数名を派遣 団長は常駐 原則土日祝日に派遣

【会場等】施設等の問題があり、音楽室ではなく学校夜間開放の仕組みを利用し体育館等で実施（平日金曜日の活動終了時に、土日活動のため楽器を体育館に運ぶ）

【日程調整】平日の顧問と、休日の指導員が連携し対応 生徒に周知（LINE等整備）

### ②部活動地域移行検証委員会について

関係団体を委員とした「部活動地域移行検証委員会」を開催し、今年度実施しているそれぞれの部活動の実施状況を検証し、令和5年度事業拡大へ向けての課題を協議・整理する。

### ③各種調査について

生徒や保護者へのアンケート調査の実施や、現地視察等聞き取り調査を実施し、実際の声を令和5年度事業拡大へ向けて反映する。

## ●参加者の声

- ・従来よりも専門性の高い指導を受けることができている。さらに、複数校による合同部活動として実施している競技については、他校の生徒と交流する機会ができたことから切磋琢磨できる環境となった、等喜びの声があった。(生徒、保護者)
- ・NPO法人おやべスポーツクラブが委託先にあることで、細かな作業(指導者の活動実績報告等)が不要となり、教員の負担が軽減された。各競技団体とおやべスポーツクラブの連絡体制が構築された。(学校、指導者)

## ●成果

### 【運動部】

- ・従来よりも専門性の高い指導を受けることができているとの声があった。さらに、複数校による合同部活動として実施している競技については、他校の生徒と交流する機会ができたことから切磋琢磨できる環境となった、等喜びの声があった。(生徒、保護者)
- ・日本代表経験者の指導はありがたい、目つきが変わった。将来、日の丸をつけてほしい。(保護者)
- ・NPO法人おやべスポーツクラブが委託先にあることで、細かな作業(指導者の活動実績報告等)が不要となり、教員の負担が軽減された。各競技団体とおやべスポーツクラブの連絡体制が構築された。(学校)
- ・競技団体派遣の外部指導者が、中学校体育連盟が主催する大会以外の試合で生徒引率することで、教員の働き方改革につながった。(学校)
- ・年末に、県中体連から「富山県中学校体育連盟主催大会に参加を希望する地域スポーツ団体等に関する認定基準」が示された。部員数減少を理由とする、2校の合同クラブチームとなる予定である。今後この制度を利用し、大会に参加する団体が出てくるのではないかと。(保護者、学校)

### 【吹奏楽部】

- ・指導者が積極的に取り組んでおり、「うれしい」「毎回楽しみ」という声が聞こえている。(生徒、保護者)
- ・平日は個人練習、休日は全体練習、というメリハリのある活動体制となった。(生徒、学校)
- ・吹奏楽団の取組の一環として、ケーブルテレビに活動成果を報告することとなった。(学校)
- ・砺波地区アンサンブルコンテストに向けて、平日の顧問による指導、休日の吹奏楽団による指導が一体となって活動できた。「大会前3回活動」(学校)

### 【共通】

- ・高齢化、団員減少を抱えている団体は、部活動の地域移行を契機に今後の団員不足解消のきっかけとも捉えられている。(団体)
- ・平日の活動時間が限られ十分な練習時間が確保できない反面、土日祝日は、確保(3時間)できている。(生徒、保護者)
- ・平日の顧問の休日部活動に関わる時間については、明らかに減少した。(休日も指導がしたい、という教員は地域の指導者として登録。社会貢献。3名有)(学校)
- ・学校、市体育協会、NPO法人おやべスポーツクラブ、現部活動指導員、エキスパートに対して、今年度の活動報告(経過報告)、それから、来年度からの「富山県中学校体育連盟主催大会に参加を希望する地域スポーツ団体等に関する認定基準」についての広報が、迅速にできた。令和5年度については、2団体申請する予定であり、競技団体によっては1年間かけて内部で検討しようというきっかけづくりの場を提供できた。(市)
- ・新型コロナウイルス感染による欠席、公式戦終了後のホッケー部3年生の参加率の低下等の影響もあるが、ほとんどの競技について参加率が70%以上となった。(市)

## ●課題

### 【運動部】

- ・やる気のありすぎる指導者が多く、土日祝日ともにフルに活動したいと思っている競技団体がある。部活動のガイドラインに沿った運用を求めていくこと。
- ・地域スポーツ団体認定に関する規定のハードルが高く、認定申請に迷いのある競技団体がある。現在、スポーツの継続を理由に、指定校変更している生徒がおり(R4:5名)、地域スポーツ団体が認定された場合、指定校変更せずに好きな部活動が続けられる。
- ・単独校での地域移行、地域クラブ申請をしないと指導者のみでの大会引率ができない。

### 【文化部】

- ・学校施設の問題から、平日の活動場所(音楽室)を休日に使えていない。
- ・活動場所が学校以外となると、楽器の移動や保管が困難。
- ・今年度1校を対象にモデル事業を実施したことにより、他校からは「うらやましい」という声が聞かれた。

- ・指導者のなり手が少なく、複数校で地域移行を進めることが難しい。
- ・コンクール等へ指導者のみでの引率ができない。

#### 【共通】

- ・活動場所によっては、保護者の送迎等の負担が発生してくる。
- ・今年度は半年間のモデル事業をお願いした部分があったため、令和5年度の通年実施に不安を抱えている団体もある。
- ・平日の顧問と休日の指導者のつながりは非常に大事であるが、競技により担当業務の線引きが異なる。
- ・費用負担（指導者報酬、遠征等に係る指導者旅費）が部活により異なる。

## ●課題解決に向けて

#### 【運動部】

- ・各競技団体には、指導者資格取得や、市や県が開催する指導者講習会に積極的に取り組み、資質向上を図ることを促していく。（市で資格取得助成有）
- ・大会のあり方については、富山県中学校体育連盟に対し、令和5年度の成果や課題を確認し、令和6年度以降のクラブ化に向けて協議していく。

#### 【文化部】

- ・活動場所については、未だ解決策は見出せていない。施設を改修していくのか、人員体制を整備していくのか来年度も検討していくこととなる。併せて学校側と、施設使用についてのルール作りを検討していく。
- ・本市には、「クロスランドおやべ」という施設があり、集まって合奏のできる環境があることから、今後は移動手段を含めた検討が必要となる。

#### 【共通】

- ・活動場所への送迎については、スポーツ少年団時から慣れているという保護者が多いことがわかったが、少しでも負担を軽減できるよう交通網含めて今後も検討していく。
- ・財源確保の観点から、本市とNPO法人おやべスポーツクラブ、吹奏楽団等が主体となり、国県の各種補助金、及び民間企業等の支援を有効に活用、組み合わせて実施していくことを検討していく。

## ●今後の課題と対応

#### 【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・引き続き、NPO法人おやべスポーツクラブと業務委託契約を締結し、学校、競技団体等の連絡調整体制を構築していく。

#### 【受け皿団体の確保方策】

- ・NPO法人おやべスポーツクラブ、市体育協会と連携し、各競技団体と情報の共有を図り、段階的に受け皿を確保していく。

#### 【指導者の確保方策】

- ・市単独の補助金（競技力向上対策事業補助金）について、各種スポーツ団体の会合等で周知し、指導者の増に努める。

#### 【困窮世帯への支援方策】

- ・困窮世帯に必要な経費項目・金額の調査を段階的に実施していく。

#### 【地域移行の自走化に向けた方策】

- ・本市特有のホッケー競技については、県（市）ホッケー協会が中心となって、本格的な移行に向けて体制を構築していく。

#### 【地域特有の課題への対応策】

- ・4中学校ともに、生徒数が減少していることから、部活動の地域移行を含めた学校再編の議論を展開していく。